

# 定期作況報告

(第5号 平成24年9月20日現在)  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 上川農業試験場

## 1. 気象概況

8月下旬：最高気温は平年より4.5℃高く、最低気温も平年より4.1℃高かった。降水量は平年より15.0mm多く、平年対比135%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より22.4時間多く、平年対比144%であった。夏日（最高気温25℃以上）は10日、うち真夏日（最高気温30℃以上）は4日であった。

9月上旬：最高気温は平年より3.4℃高く、最低気温も平年より3.6℃高かった。降水量は平年より11.4mm多く、平年対比119%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より19.0時間多く、平年対比141%であった。夏日は8日、うち真夏日は3日であった。

9月中旬：最高気温は平年より4.4℃高く、最低気温も平年より6.6℃高かった。降水量は平年より37.8mm多く、平年対比214%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より5.9時間少なく、平年対比88%であった。夏日は6日、うち真夏日は1日であった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	29.2	24.7	4.5	27.5	24.1	3.4	26.5	22.1	4.4	27.7	23.6	4.1
最低気温(℃)	18.8	14.7	4.1	17.3	13.7	3.6	17.6	11.0	6.6	17.9	13.1	4.8
平均気温(℃)	23.9	19.4	4.5	21.7	18.6	3.1	21.6	16.2	5.4	22.4	18.1	4.3
降水量(mm)	58.0	43.0	15.0	71.0	59.6	11.4	71.0	33.2	37.8	200.0	135.8	64.2
降水日数(日)	2	4	▲2	4	5	▲1	5	4	1	11	13	▲2
日照時間(hr)	73.1	50.7	22.4	65.7	46.7	19.0	44.1	50.0	▲5.9	182.9	147.4	35.5

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作 況

### 1) 水 稲：平年並

事由：8月下旬からの好天により順調に登熟し、成熟期は平年並からやや遅かったものの、登熟日数はほぼ平年並であった。㎡当たり穂数は平年対比で「ほしのゆめ」、「きらら397」が112%と多く、「ななつぼし」も106%でやや多かった。一穂粒数は平年対比で90～96%と少なかったが、穂数が多かったことから、㎡当たり粒数（㎡当たり穂数×一穂粒数）は平年対比で「ほしのゆめ」は107%で多く、「きらら397」、「ななつぼし」は平年並であった。稔実歩合はいずれの品種も平年並で、㎡当稔実粒数（㎡当たり粒数×稔実歩合）は平年対比で「ほしのゆめ」は108%と多く、「きらら397」、「ななつぼし」は平年並であった。登熟歩合は平年対比で「きらら397」は96%とやや低かったが、「ほしのゆめ」、「ななつぼし」はやや高かった。

以上、㎡当たり粒数は平年並からやや多く、稔実歩合、登熟歩合はほぼ平年並であることから、目の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品種名	苗	成熟期(月・日)			登熟日数(日)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	9.08	9.05	3	47	45	2
きらら397	成苗	9.13	9.11	2	50	50	0
ななつぼし	成苗	9.09	9.10	△1	47	49	△2

注1) 平年値は平成17～23年7カ年中、平成20年、平成21年を除く5カ年の平均。

2) △印は平年に比べて「早」（成熟期）を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品種名	苗	㎡当たり穂数(本)				一穂粒数(粒)				㎡当たり粒数(×1000粒)			
		本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ	成苗	794	711	83	112%	41.1	43.0	▲1.9	96%	32.6	30.5	2.1	107%
きらら397	成苗	754	676	78	112%	39.9	44.1	▲4.2	90%	30.1	29.6	0.5	102%
ななつぼし	成苗	688	652	36	106%	49.6	52.1	▲2.5	95%	34.1	34.0	0.1	100%

品種名	苗	稔実歩合(%)				㎡当稔実粒数(×1000粒)				登熟歩合(%)			
		本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)	本年	平年	比較	対比(%)
ほしのゆめ	成苗	94.3	93.3	1.0	101%	30.7	28.5	2.2	108%	88.8	86.6	2.2	103%
きらら397	成苗	93.5	93.9	▲0.4	100%	28.1	27.8	0.3	101%	83.5	86.8	▲3.3	96%
ななつぼし	成苗	94.3	93.7	0.6	101%	32.2	31.7	0.5	102%	92.7	88.3	4.4	105%

注1) 平年値は平成17～23年7カ年中、平成20年、平成21年を除く5カ年の平均。

2) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

3) 一穂粒数は、登熟調査および不稔調査を行った株の平均。

表4 出穂後経時登熟歩合

品種名	苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ほしのゆめ	成苗	18.7	15.7	3.0	67.9	63.6	4.3	85.4	83.5	1.9
きらら397	成苗	6.8	14.4	▲7.6	58.3	62.9	▲4.6	80.2	81.7	▲1.5
ななつぼし	成苗	14.9	13.6	1.3	62.1	58.7	3.4	88.5	83.3	5.2

注1) 平年値は平成17～23年7カ年中、平成20年、平成21年を除く5カ年の平均。

2) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

3) ▲印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦

平年の播種日は9月12日であるが、天候不順のため播種作業は遅れており、9月20日時点で未播種である。

注) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年（収穫年度）を除く5か年の平均値。

3) 春まき小麦： 良

事由：成熟期の穂数、穂長は平年を上回り（既報）、千粒重も平年を上回ったことから、子実重は平年比149%と多収であった。リットル重も平年を上回った。

したがって、目下の作況は良である。

表5 春まき小麦の収量

品 種 名	子実重 (kg/10a)			子実重平年比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
春 よ 恋	630	422	208	149	100	49

品 種 名	千 粒 重 (g)			リットル重 (g)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
春 よ 恋	45.8	39.3	6.5	821	789	32

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、22年を除く5か年の平均値。

2) リットル重は1リットル升による測定。

4) 大豆 : 平年並

事由：高温、多雨に経過し、成熟期には達していない。主茎長は平年より10cm以上長く、分枝数はやや多い。着莢数は平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 9月20日の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	—	9.20	—

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	79.9	67.8	12.1	10.6	10.5	0.1	6.5	5.8	0.7

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
ユキホマレ	76	76	0

注 1) 平年値は前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。

5) 小豆 : 良

事由：8月下旬以降は高温に経過した。しかし、観察によると開花期間の後半に着莢した莢が平年より多かったため、成熟期は平年より3日から4日遅かった。成熟期における主茎長、主茎節数は平年を上回り、分枝数は平年並からやや下回った。着莢数は平年を上回った。なお倒伏程度は甚であり、成熟期前後に多雨であったことから、品質の低下が懸念される。

したがって、目下の作況は良である。

表7 成熟期の小豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ しゅまり	9. 7	9. 3	4	79	73	6	17.1	13.8	3.3
	9. 6	9. 3	3	89	76	13	16.5	13.3	3.2

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (莢/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ しゅまり	4.8	5.0	▲0.2	71	57	14
	5.1	5.8	▲0.7	65	54	11

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、平成20年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ： 平年並

事 由：茎葉の黄変は平年より早く進んだが、8月以降の高温、多雨により茎葉の二次生長が散見され、枯凋期は平年より2日遅かった。塊茎の肥大も続き、上いも平均一個重は平年より10g重かったが、二次生長はほとんどみられない。株当り上いも数が少なかったため、上いも収量は平年比90%であったが、規格外の小さいものが少なく、中以上いも収量は平年比97%、規格内いも収量は平年比99%とほぼ平年並であった。でん粉価は、前報まで平年より高く推移したが、高温、多雨により茎葉の二次生長や塊茎肥大が続いたため低下し、平年を0.4ポイント下回った。

したがって、目下の作況は平年並である。

表8 枯凋期のばれいしょの生育、収量

品種名	枯凋期 (月日)			上いも数 (個/株)			上いも平均一個重 (g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	9. 6	9. 4	2	10.1	12.4	▲2.3	101	91	10

品種名	上いも収量 (kg/10a)			中以上いも収量 (kg/10a)			規格内収量 (kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	4526	5048	▲522	4147	4285	▲138	4037	4084	▲47

品種名	でん粉価 (%)			収量平年比 (%)		
	本年	平年	比較	上いも	中以上	規格内
男爵いも	14.5	14.9	▲0.4	90	97	99

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内 (M~2L, 60~260g) の収量である。